

先週の説教要旨

『墮落とは』井上隆晶牧師
創世記 3 : 1~13、マルコ 12 : 28~34

①【罪とは、本当の人になれないこと】
創世記 3 章は人間の罪の始まりについて書かれています。エデンの園の中央には「命の木」と「善悪の知識の木」がありましたが、神はアダムに「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

(創世記 2 : 17) と命じられました。この二本の木は、人生の二つの生き方の象徴として描かれています。命の木とは、神によって生きる生き方の象徴であり、善悪の知識の木とは神の様に知恵を得て賢くなり、自分の力で生きる生き方の象徴です。では罪とは何でしょう。罪を現わす「ハマルティア」というギリシャ語は、「的をはずす」という意味です。罪を、戒めに違反する事というように法律的にとらえないようにしましょう。むしろ、人間存在全体が本当の人間になれていない状態のことをさしていると思ってください。それは今のこの世界を見ても分かるでしょう。戦争を行う人、自分の利益でしか物を考えない国の指導者、自分の子供を平気で殺す親など「これが人のする事か!」「人として恥ずかしくないのか!」「人で無し(人ではない)!」と、よく言われるでしょう。三位一体である神のイメージとして人間が創造されているということは、本当の人というのは、互いに愛し合うものなのです。それがそうならないことが罪です。

②【悪魔との対話】ではどうしてそうなってしまったのでしょうか。エデンの園に蛇がいました。蛇は悪魔の象徴として描かれます。蛇は女にいいました。「園のどの木からも食べてはいけない、などと

神は言われたのか。」(創世記 3 : 1) 神は「園のすべての木から取って食べなさい」と言われましたから、悪魔は神とまったく逆の言葉(嘘)を語るのが分かります。神はいいかげんな方であると思わせ、エバの心を不安にさせ神に対して疑いを起こさせるためです。エバは「私たちは園の木の果実を食べても良いのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」(3 : 3) と答えます。エバは命の木も禁じられた木として入れてしまい、「触れてもいけない」という言葉も加えてしまいました。そこで悪魔は「決して死ぬことはない。それを食べると目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」(3 : 4~5) と嘘を断言します。二人が善悪の知識の木の実を取って食べると悪魔が言ったように目は開くのですが、この世に対して開いたのです。彼らは自分たちが裸であることを知り、いちじくの葉で腰を覆います。「裸」とは弱さの象徴です。人間は自分の弱さを知って恐れ、様々なもので飾り始めたということです。知識を手に入れた人間は、ますます不安になるのです。

③【罪の結果~交わりの喪失~】神が歩く音を聞いたアダムとエバは「神の顔を避けて、園の木の間に隠れ」ます。神がアダムと呼ぶと「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。私は裸ですから。」(3 : 10) と答えます。さらに木の実を食べた理由をエバのせいにし、エバは蛇のせいになりました。ここに罪によってどんどん「関係」が崩れてゆく様子が書かれています。人は神から遠ざかり、さらに共に生きる人に対しても遠ざかった生き方をするようになるのです。交わりの喪失、これが罪の症状なのです。4 世紀の聖マカリオスは「地獄では人は互いの顔を見

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立 1957 年 12 月 1 日 教会設立 2001 年 12 月 2 日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

E メールアドレス : miyakoch@eagle.ocn.ne.jp

ホームページアドレス : <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上隆晶

2025年3月2日 No.1809



《最後の審判》

都島教会の 2024 年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。」(I コリント 3 : 11)

2024 年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 27 名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 会堂建築のための具体的な準備をします。
- 4 皆で教会を建てる意識を育てます。